

千葉市
あの頃

昭和30年代の まちとくらし

戦争の傷痕も次第に癒え、市民のくらしも徐々に活気を取り戻していった昭和30年代。まちとくらしを写真で振り返ります。
問広報広聴課 ☎245-5014 FAX245-5796



銀座通りの七夕

空襲の記憶を癒す、商店街を彩る七夕の飾り。

1958年(昭和33年)



川崎製鉄千葉製鉄所(現JFEスチール株東日本製鉄所)

1958年(昭和33年)3月、第二溶鉱炉の火入れ式が行われました。



魚市場開場

水揚げされた魚貝類が早朝の市場に熱気を連れてきました。

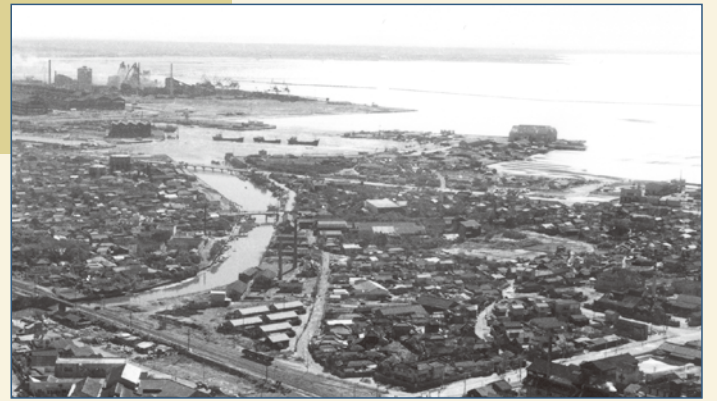
1962年(昭和37年)



都川河口

河口左には製鉄所、右には出州の埋立地が見えます。

1958年(昭和33年)



子どもたちの姿

都川河口。街角の空き地は子どもたちの恰好の遊び場でした。



稲毛海岸

埋立工事が始まる前。土砂を運ぶパイプが設置されました。

1960年(昭和35年)



東京オリンピック

1964年(昭和39年)10月10日から2週間にわたり、第18回オリンピック東京大会が開催されました。



聖火リレー県庁到着

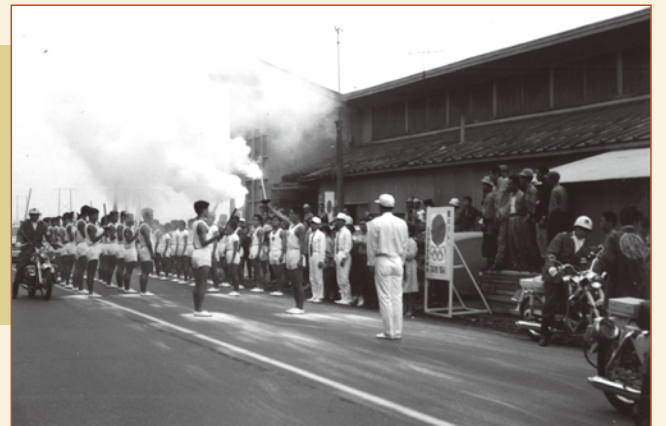
聖火を待つ県庁前には多くの人が詰めかけました。

1964年(昭和39年)10月6日



聖火リレー

1964年(昭和39年)10月7日



オリンピック競技

東京大学検見川総合運動場では、近代五種競技のうちのクロスカンントリーが行われました。

1964年(昭和39年)10月15日



この特集は、「千葉市市制施行100周年記念誌」から抜粋しました。記念誌は、市政情報室と郷土博物館で購入(200円)、または図書館やホームページで閲覧できます。

詳しくは、[千葉市 100周年記念誌](#)

